

第2回東京都聖火リレー実行委員会

<概要>

2018.10.24

1. 聖火リレーの概要について

2020年3月12日（木） ギリシャ・古代オリンピア市 聖火採火式

3月19日（木） ギリシャ・アテネ市にて聖火引継式

3月20日（金） 宮城県にある航空自衛隊松島基地に聖火到着

3月20日（金）～25日（水） 宮城県・岩手県・福島県で順次2日ずつ「復興の火」として展示

3月26日（木） 福島県から日本全国を巡る東京2020オリンピック聖火リレーがスタート

7月10日（金） 東京都聖火リレー初日

↓
全62区市町村をいわゆる「一筆書き」となるルートで15日間を巡回

★毎日のイベント

<必須のもの>

・セレブレーション 毎日（7/24を除く）の最後に行う聖火の到着を祝うセレモニー。14回開催

<任意のもの>

・出発式 毎日の出発時に実施

・ミニセレブレーション 各区間のリレーの途中で実施

2020年7月24日（金） 東京都聖火リレー最終日

2. 東京都聖火リレーのルート・セレブレーションの考え方について

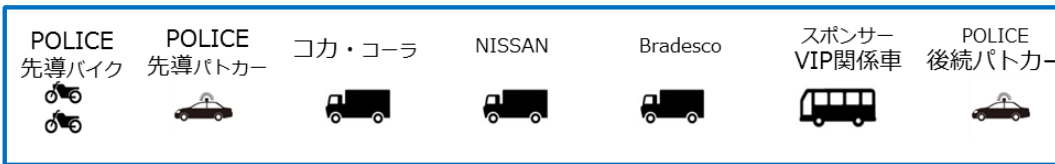
(1) 東京都聖火リレーのスタート及びゴールについて

<考え方>

- 組織委員会が示すオリンピック聖火リレーコンセプト「希望の道を、つなごう。」を体現できる場所
(支えあい、認めあい、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らしだす。)
- 日本国内を巡回した聖火が、開催都市・東京都に運ばれたことを世界に発信するのに相応しい場所
- 出来るだけ多くの人々が見に行くことができ、安全かつ確実に実施できる場所 (車列の待機場所の確保も必要)

<参考> 聖火リレーキャラバン隊のイメージ (リオ2016大会)

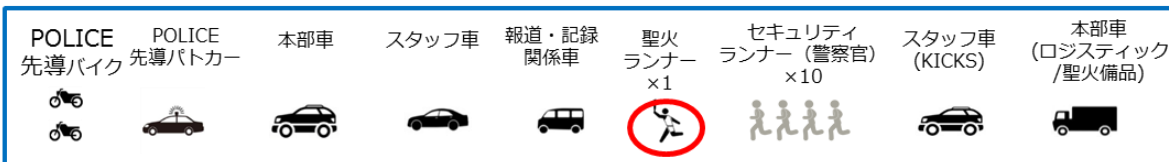
① 先行車



聖火ランナー配置バス



② 本隊車



聖火ランナー回収バス



③ 後押車



※出発式等のイベント実施にあたっては、隊列の待機スペース (駐車場等) が必要

(2) セレブレーションの会場等について

<セレブレーション会場のイメージ>

- 1,000から3,000名程度の観客が収容できること

- 「ステージエリア」

「観客エリア」

「会場内走行路（聖火ランナーが入場する花道）」の3要素が確保できること

- 聖火（裸火）を扱うことができること など

※セレブレーション会場は、組織委員会と調整の上、**都道府県実行委員会が確保**

<留意すべき事項>

- 東京都内全域で広く気運醸成を図ることが重要なため、セレブレーション会場は**各地域にバランスよく配置**
- 区市町村の実施意向も踏まえながら検討

(3) ルートの策定について

<組織委員会が示すルート選定の基本的な考え方（第1回実行委員会で提示）>

- 日本全国47都道府県を回り、出来るだけ多くの人々が見に行くことができるルート
- 安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所

その上で

- 地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気づかせる場所
- 聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所

<前回の議論>

- 東京都内全域で開催気運が盛り上がるよう、**都内62区市町村を全て巡るルート**
- 地域が国内外に誇る場所として、

東京を象徴するランドマークやビュースポット、

1964年大会のレガシーや東京2020大会新規会場などを巡回してはどうか

(第1回実行委員会で提示)

3. 今後のスケジュール等について

2018年12月下旬 第3回実行委員会

- 聖火リレールート巡回順案の審議
- セレブレーション会場案の審議

2019年（引き続き、実行委員会を開催）

- 聖火リレールート詳細案・セレブレーションの具体的内容の検討
- ランナー選出計画案の策定及び公募・選考の実施 など

2020年

- 聖火リレーの実施

<参考> 実施にあたっての東京都と区市町村の役割分担の考え方

- 都内全域で大会成功に向けた気運醸成を図るため、全ての区市町村を巡回
- 観衆、地域住民など多くの人々が大会に参加し、オリンピックに積極的に参画できる貴重な機会
- 聖火リレーは、地域の魅力を世界に発信できる場

→ そのため、聖火リレーの成功に向けて、**都と区市町村が連携し**、適切な役割分担に基づいて、
聖火リレーを実施していく